

恩賜箱根公園 整備・管理計画

2024（令和6）年2月
神奈川県県西土木事務所
小田原土木センター

目 次

はじめに	2
第 1 章 恩賜箱根公園のめざす姿	3
1－1 概要	
1－2 特性	
1－3 めざす姿	
第 2 章 めざす姿の実現に向けた、今後 10 年間の目標	11
2－1 課題	
2－2 今後 10 年間の目標	
第 3 章 目標の実現に向けた、整備・管理の方針	14
3－1 管理の方針	
3－2 整備の方針	

はじめに

「神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、恩賜箱根公園の現状や特性を踏まえ、本公園がめざす姿（将来像）の実現に向け、今後10年間を見据えた整備目標を設定した上で、整備・管理の方針と取組を定めたものが、「恩賜箱根公園 整備・管理計画」です。

県立都市公園では、公園管理者、指定管理者、関係団体、公園利用者など、多様な主体により整備や管理運営が行われていますが、この計画により、それぞれの主体が効果的、効率的な取組の展開につなげていけるよう、公園に関わる様々な人たちが、公園のめざす姿に加え、今後10年間の整備目標の実現に向けた整備・管理の方針と取組などを共有するために活用していきます。

また、計画に掲げられた目標の達成状況や各取組の進捗状況、社会経済状況を踏まえ、おおむね5年を目安に、必要に応じて見直しを行っていきます。

【参考】神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針

整備と管理の方向性について、5つの視点から10の施策の方向性と24の施策の展開による体系を示しています。

視点	施策の方向性	施策展開の具体例
Ⅰ 自然環境の保全と活用	(1)生態系や生物多様性の保全	①自然環境情報の共有と整備・管理方法への反映
		②外来生物対策や自然植生復元などの動植物の生息環境づくり
	(2)地球環境問題等への地域からの対応	③環境学習フィールドとしての機能向上
		④環境負荷軽減の推進と都市生活環境問題へのアプローチ
Ⅱ 災害対応の推進	(3)緊迫する自然災害への対応	⑤より具体の発災時想定に基づく連携対応強化による防災力の向上
		⑥様々な災害に対応する防災施設の整備
Ⅲ ユニバーサルデザインの推進	(4)誰もが安全・安心にすごせる公園づくり	⑦安全で安心な公園のための施設の整備と管理
		⑧ユニバーサルデザインの推進
		⑨誰もが楽しめる利用・健康増進プログラムや憩いの空間の提供
Ⅳ 地域活性化への貢献	(5)歴史や文化の継承と創造	⑩歴史資源や伝統行事の継承
		⑪地域文化を育む舞台となる公園づくり
	(6)地域と一体となった魅力の向上	⑫周辺施設や観光資源とのネットワーク
		⑬地域活性化の推進 ⑭風景美術館を目指した景観づくり
Ⅴ 効率的で効果的な公園整備とサービス	(7)質の高いサービスの提供	⑮指定管理者制度の効果的運用
		⑯ニーズ把握を踏まえた施設・サービスの充実
		⑰広報、情報発信等の工夫
	(8)多様な主体との連携	⑱連携の多様化
		⑲民間活力の利用（Park-PFI等の活用）
		⑳連携のための仕組みの推進
	(9)既存公園の再生	㉑公園施設長寿命化計画の策定と更新
		㉒公園再生の着実な推進
	(10)都市の魅力高める都市公園整備の着実な推進	㉓都市公園の着実な整備の推進
		㉔国と連携したみどりの拠点整備

第 1 章 恩賜箱根公園のめざす姿

1-1 概要

(1) 所在地 : 足柄下郡箱根町箱根、元箱根

(2) 都市計画の概要

ア 都市計画決定

	日付	番号	面積
当初	1959(昭和 34)年 3 月 23 日	建設省告示第 456 号	15.86ha
最終	1977(昭和 52)年 12 月 2 日	県告示 840 号	15.89ha

イ 公園種別 風致公園

(3) 整備目的

皇室から神奈川県に下賜された箱根離宮跡地の保全と庭園文化の継承。

(4) 整備方針

自然と歴史を肌で感じ、芦ノ湖、箱根外輪山、富士山などの眺望を楽しめる名勝地として、人々に親しまれる公園とする。

(5) 開設の状況

ア 開園年月日 : 1959 (昭和 34) 年 4 月 28 日

イ 開園面積 : 15.89ha (1977 (昭和 52) 年 12 月 2 日現在)

(6) 開園時間

終日解放 (年中無休)

(7) 駐車場

(ア) 駐車台数

普通車 : 62 台 (うち車いす用駐車場 3 台)

大型車 : 9 台

(イ) 駐車場利用時間

通年 7 時 00 分 ~ 21 時 00 分 (入場は 19 時 00 分まで)

(8) 位置図



(9) 航空写真



(出典:国土地理院の空中写真(2004年撮影))

※赤線内が公園区域です

(10) 公園の主な施設

箱根離宮が建てられていた場所であり、当時の西洋館の規模がうかがえる礎石跡がある「中央広場」、箱根離宮の西洋館をモチーフとして再現した「湖畔展望館」、箱根離宮当時から展望広場となっていた「塔の鼻広場」、芦ノ湖と富士山などの眺望を楽しむ「弁天の鼻展望台」、箱根の自然林が残り自然探勝路となっている「湖畔路」など

(11) 利用状況

直近3年間の年間利用者数は約19万人ですが、新型コロナウイルス感染症流行前の3年間は約34万人でした。

2020～2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
合計（人） 193,257	14,213	12,363	12,588	11,326	18,765	15,382
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	22,429	31,285	16,206	10,573	10,086	18,041

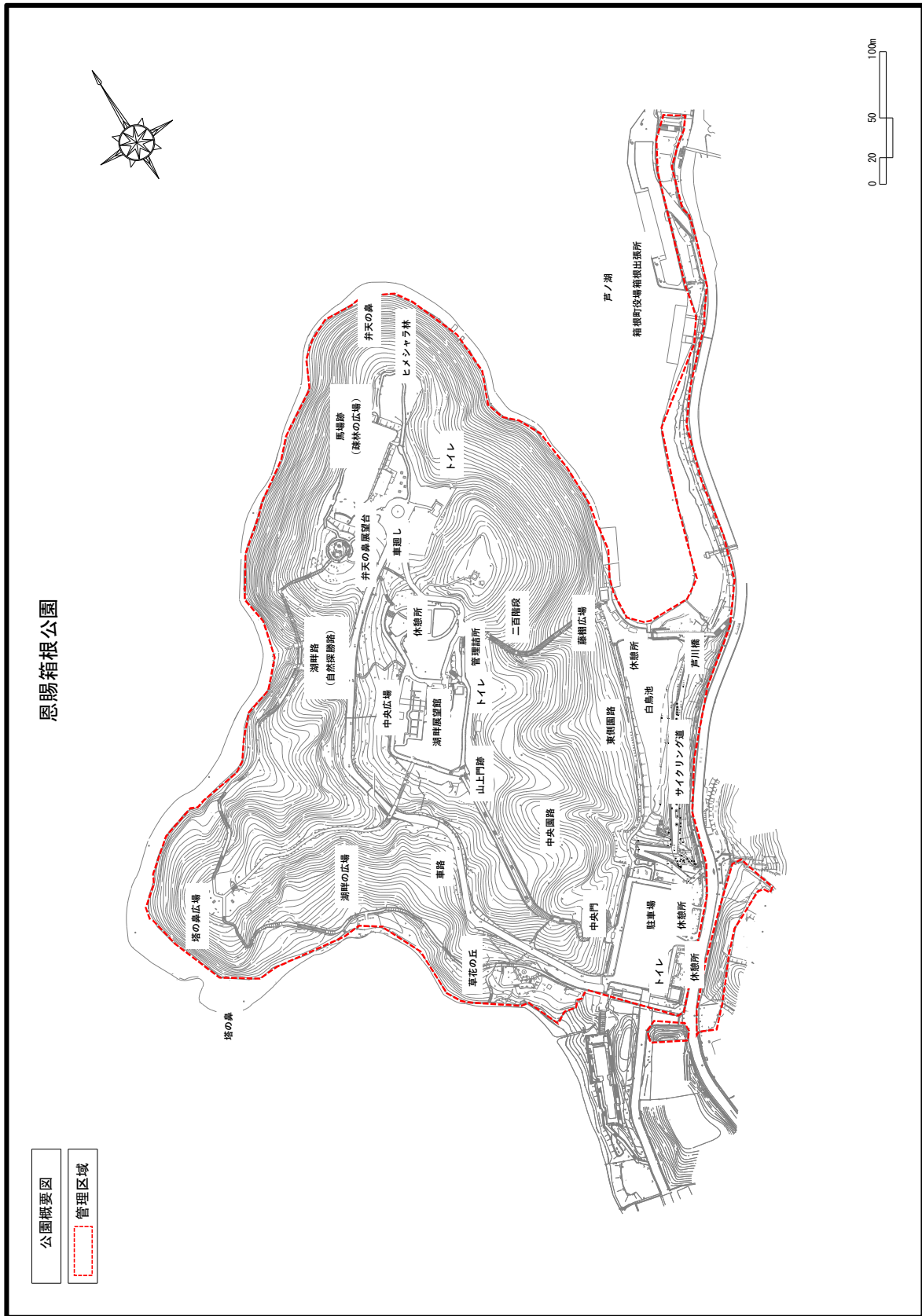
(参考)

2017～2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
合計（人） 343,265	36,623	38,215	28,005	26,382	31,967	29,026
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	35,027	38,136	22,127	17,972	15,787	23,998

(12) 主なイベント開催状況

イベント名称	主催者	開催時期	イベント内容
「箱庭さんぽ」 公園ガイドツアー	指定管理者	4月～11月	歴史的スポットや眺望が美しい場所をめぐる公園ガイドツアー
牡丹展	指定管理者	4月	牡丹の展示・即売会
バラ展	指定管理者	5月～6月	バラの展示・即売会
七夕飾り	指定管理者	7月	七夕飾り用笹竹を設置
ざる菊展	指定管理者	10月～11月	ざる菊の展示・即売会
紅葉体験ツアー	指定管理者	11月	紅葉を楽しみながら、自然の魅力や大切さを発見していく公園ガイドツアー
門松の展示	指定管理者	12月	公園中央門に門松を設置

【恩賜箱根公園概要図】



1-2 特性

(1) 公園の成り立ち

本公園の前身は、1884（明治 17）年に宮内省が皇室の避暑、避病と外国からの賓客のための離宮用地として買収し、1886（明治 19）年に造られた箱根離宮とその庭園です。

1923（大正 12）年の関東大震災、1930（昭和 5）年の北伊豆地震などの影響で、その規模が縮小されたのち、1945（昭和 20）年 11 月に皇室から神奈川県に下賜され、その翌年に車道や駐車場、展望広場、園路などを整備し、一般に開放しました。

その後、1959（昭和 34）年 4 月 28 日に、この場所を保全することを目的に県立都市公園として開園しています。

(2) 公園の特性

本公園は、箱根の代表的な観光スポットである芦ノ湖の湖畔に位置し、明治時代の箱根離宮跡地を活かした公園で、仕立てられたツツジやアセビなどの株物、スギ、マツなどの老木が由緒ある庭園の雰囲気醸し出しています。

また、芦ノ湖に面する部分には箱根の自然林が残り、周辺も自然環境に恵まれ、園内には様々な草花、夏鳥を始めとする野鳥や野生動物が見られ、芦ノ湖と富士山などの眺望も良く、観光客が多く立ち寄る公園です。

他にも、箱根離宮当時の地形、施設の痕跡を生かした公園整備が評価され、近代造園文化の発展に寄与した名勝地として、2013（平成 25）年 8 月 1 日に国登録記念物（文化財保護法によって定められた、保存及び活用のための措置が特に必要とされる記念物）に登録されました。



(3) 公園特性の全体把握表

「神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針」に示す特性項目により、恩賜箱根公園の特性を整理します。

特性	特性項目	公園の状況
自然	①緑地	芦ノ湖に面する部分には自然林が残り、ハコネマメザクラ、ハコネサンショウバラなどの箱根地域の固有種が生育し、また、絶滅危惧種を含む多くのコケ類が確認されている。
	②生態系	周囲が富士箱根伊豆国立公園区域であること、芦ノ湖に面していることもあり、公園および周辺では多くの野鳥が観察される。
	③地形状況	芦ノ湖に突出した半島となっており、標高は最高地点と最低地点では50mの差があり、小山のような地形をしている。
防災	④防災	神奈川県地域防災計画の「神奈川県災害時広域受援計画」では、広域応援活動拠点*に指定されている。
歴史文化 保有状況	⑤歴史	皇室の避暑、避病の地として建立された、箱根離宮の西洋館をモチーフとして再現した湖畔展望館があり、その前庭には西洋館の礎石が残されている。また、かつての東海道に架かっていた石橋「芦川橋」が移設されている。
	⑥文化	—
交通状況	⑦交通アクセス	最寄り駅「小田原駅」からバスで約1時間、 「箱根湯本駅」からバスで約40分。 最寄りIC「小田原厚木道路 小田原西IC」から約40分。 「東名高速道路 御殿場IC」から約50分。
	⑧駐車場容量	1カ所 大型車9台、普通車62台
周辺状況	⑨2km圏内(徒歩)	芦ノ湖畔沿いに宿泊施設や観光施設が点在する。周囲には多くの観光施設が立地する。
	⑩10km圏内(乗り物)	周囲は富士箱根伊豆国立公園区域に含まれ、芦ノ湖や急峻な地形が広がっており、幹線道路沿いに住居が点在する。
レクリエーション 施設	⑪レクリエーション	芦ノ湖畔の園路などでの散策、湖畔展望館の展示室、湖畔展望館や中央広場からの眺望などがある。
利用者	⑫利用者数	年間約34万人(コロナ禍では年間約19万人)
	⑬利用者ニーズ	「散策・散歩」や、「自然観察」などの利用が多い。
	⑭イベント	近隣に様々な観光施設が立地することから、それらと連携したスタンプラリーイベントや、園内の歴史スポットや眺望スポットを巡るガイドツアーなどが行われている。
開園時期	⑮開園時期	昭和34年に開園。
住民参加	⑯住民参加	近隣幼稚園と行う花植えの開催などを行っている。

※広域応援活動拠点…大規模な災害が発生したときに、県による災害活動中央基地や広域防災活動拠点の開設に合わせ、市町村が自衛隊、広域緊急救助隊、緊急消防救助隊等の受入体制として開設するもの。

(4) 公園の魅力

公園の概要と特性を踏まえ、本公園の魅力を抽出すると以下のとおりとなります。

ア 芦ノ湖や富士山等を借景とする良好な景観

本公園は、芦ノ湖に突出した半島の塔ヶ島に整備された都市公園であり、公園からは芦ノ湖、富士山、箱根外輪山などの素晴らしい眺望や、富士箱根伊豆国立公園の自然景観を楽しむことができ、「かながわの景勝 50 選」のひとつに選ばれています。

イ 四季折々の花と幻想的なコケたち

本公園は、サクラ、ツツジ、ヤマユリなどによる四季折々の花修景が魅力のひとつとなっています。

また、園内には絶滅危惧種を含む 147 種に及ぶコケが確認されており、石積みや園路わき、木立の中など様々な場所に幻想的なコケの世界が広がっています。

ウ 皇室ゆかりの庭園

本公園は、皇室ゆかりの地である「箱根離宮」の跡地にあり、園内には、離宮のデザインを模した湖畔展望館と、手入れされた由緒ある樹木が離宮時代の雰囲気を出しています。

エ 国際観光地に位置する公園

本公園は、日本有数の国際観光地「箱根」の芦ノ湖畔に位置し、周辺には、芦ノ湖、箱根旧街道杉並木、箱根関所、箱根駒ヶ岳など、多数の観光資源を有しており、これらと連携した観光ができることが魅力です。

1-3 めざす姿

恩賜箱根公園は、芦ノ湖に突出した半島の塔ヶ島に位置し、芦ノ湖、富士山、そして箱根外輪山を一望のもとに収める箱根でも有数の景観ポイントで、園内各所の休憩所では休息の場を提供し、芦ノ湖畔をめぐる園路は、自然に親しむ休養の場となっています。

本公園の中央広場には、箱根離宮の西洋館をモチーフとして再現した湖畔展望館や西洋館の礎石などがあり、皇室ゆかりの歴史的資源の一角を担う場所となっています。

そこで、本公園では、時代とともに変化する利用者ニーズを的確に捉え、景観資源や歴史的資源を磨き上げるとともに、箱根地域固有の自然環境の保全を図り、その価値を維持、発展させ、国際観光地「箱根」の観光振興に貢献することをめざします。

【恩賜箱根公園のめざす姿】

- 芦ノ湖と富士山を中心とする景観と、箱根離宮跡など皇室ゆかりの歴史的資源の保全と活用を図る
- 箱根の固有種や、コケ類を中心とした自然環境を保全する
- 周辺施設との連携により、地域の観光振興に貢献する

第2章 めざす姿の実現に向けた、今後10年間の目標

2-1 課題

本公園における今後10年間で特に配慮が必要となる重点的な課題については、基本方針に示されている、県立都市公園が抱える8つの課題の中から、次の4つを抽出しています。

課題1 効率的で効果的な公園整備と維持管理

開園後60年以上が経過していますが、平成初期に再整備が行われ現在の姿になりました。再整備からも30年が経過し、施設の老朽化が目立っているため、適切な維持管理を行い利用者の安全を確保する必要があります。

課題4 持続可能な社会の実現への更なる取組

公園内に存する箱根の固有樹木や絶滅危惧種を含む多様なコケ類について、生育状況の把握と情報の蓄積を行いつつ、保護的な維持管理を行うエリアや眺望に配慮した剪定などを行うエリアなどのゾーニングを行い、箱根地区のランドマークの一つとして、自然環境の保護及び利用を進めていく必要があります。

課題6 高齢者、障がい者など誰もが楽しめる公園づくり

本公園は駐車場と主要施設である湖畔展望館の高低差が約30mあるため、皇室ゆかりの公園の意匠を保ちながら園路のバリアフリーを全面的に行うことは困難ですが、高齢の方や障がいのある方などでも、誰もが快適に利用していただけるよう、県民目線での幅広い検討が必要となります。

課題7 周辺資源との機能連携や情報発信の工夫を通じて地域活性化への貢献

本公園は、国際的な観光地である箱根の景勝地に位置するため、様々な国からの来園者が訪れることから、気軽に公園資源に触れられるよう、多言語化案内の更なる充実が求められます。

また、本公園周辺には、箱根関所をはじめとする観光資源を有していることから、これらと連携したイベントや情報配信を行い、地域活性化に貢献する必要があります。

【参考】今後の県立都市公園の整備・管理に係る課題（「基本方針」より）

課題1	効率的で効果的な公園整備と維持管理
課題2	県立都市公園の整備・管理の新たな指標の確立
課題3	サービス水準の確保と更なる向上
課題4	持続可能な社会の実現への更なる取り組み
課題5	大規模な自然災害への具体的で実効性のある対応
課題6	高齢者、障がい者など誰もが楽しめる公園づくり
課題7	周辺資源との機能連携や情報発信の工夫を通じての地域活性化への貢献
課題8	県民、NPO、民間事業者など多様な主体との協働・連携の推進

2-2 今後10年間の目標

【目標】 貴重な生物の生息・生育環境と共存した公園

ハコネマメザクラ、ハコネサンショウバラなどの固有種、多様なコケ類について生育状況の把握と情報を蓄積し、これらの生育環境の維持を考慮した樹林地の植栽管理などを行い貴重な生物の生息、生育環境と共存した公園を目指します。

- 【施策体系】・視点 I 自然環境の保全と活用
 - ・施策の方向性 (1)生態系や生物多様性の保全
 - ・施策展開の具体例 ①自然環境情報の共有と整備・管理方法への反映

【目標】 誰にも使いやすい公園

外国人観光客の非常に多い箱根地域の公園であることから、多言語化標記やピクトグラム使用の徹底、サイン等の色使い、さらに外国人に向けた情報発信などユニバーサルデザインの推進と、県民目線による既存施設の更なるバリアフリーの推進による誰にも使いやすい公園を目指します。

- 【施策体系】・視点 IIIユニバーサルデザインの推進
 - ・施策の方向性 (4)誰もが安全・安心にすごせる公園づくり
 - ・施策展開の具体例 ⑧ユニバーサルデザインの推進

【目標】 自然や歴史資源を肌で感じられる公園

由緒ある庭園美を継承し、大自然の眺望を巧みに活用しながら、箱根離宮など本公園にまつわる歴史文化、芦ノ湖や富士山、庭園などの景観についての情報を発信することで、気軽に自然や歴史資源を肌で感じられる公園を目指します。

- 【施策体系】・視点 IV地域活性化への貢献
 - ・施策の方向性 (5)歴史や文化の継承と創造
 - ・施策展開の具体例 ⑩地域文化を育む舞台となる公園づくり

【目標】 周辺施設と連携した地域と来園者の交流促進の場となる公園

箱根関所をはじめとする周辺の観光施設と連携したイベントやガイドツアーの実施、さらには、近隣の皇室ゆかりの庭園との連携によるガーデンツーリズムの推進、ガイドマップの作成、広報の展開など地域と一体となった観光振興を促進し、地域と来園者との交流促進の場となる公園を目指します。

- 【施策体系】・視点 IV地域活性化への貢献
 - ・施策の方向性 (6)地域と一体となった魅力の向上
 - ・施策展開の具体例 ⑫周辺施設や観光資源とのネットワーク化

【目 標】 効率的で効果的な公園施設の再生

事後的な修繕補修から予防保全的な維持管理への転換を推進し、施設の維持管理に要する負担を平準化するとともに、ライフサイクルコストの低減を図るため、「公園施設長寿命化計画」に基づき、効率的で効果的な公園施設の再生を目指します。

- 【施策体系】・視点 V 効率的で効果的な公園整備とサービス
- ・施策の方向性 (9) 既存公園の再生
- ・施策展開の具体例 ㊸公園長寿命化計画の策定と更新

第3章 目標の実現に向けた、整備・管理の方針

今後10年間を見据えた目標を実現するため、利用者へのサービスの向上を念頭に、整備や管理に関わる方針と取組について、次のとおり定めます。

3-1 管理の方針

箱根離宮跡など皇室ゆかりの歴史的資源や芦ノ湖に突出した半島の緑地を保全するとともに、芦ノ湖と富士山を中心とする優れた自然景観を眺望できる場を提供する公園として、また、地震・台風・大雨などへの対応、公園施設の老朽化に起因する事故の未然防止、そして、近年の社会状況を踏まえ、公園の利用者や周辺住民が安心して公園を利用できるように管理運営します。

(1) 維持管理に関する取組

- 利用者が安全で快適に利用できるよう、公園施設や設備については、その機能や特性を十分に理解した上で、清潔かつ正常な状態に保ちます。
- 公園施設のリニューアルに当たっては、利用者のニーズに応える質の高いサービスを提供します。
- 園路や休憩施設などの公園施設は、専門業者による点検に加え、公園管理者による日常点検やパトロールを定期的に行い、不具合の早期発見、早期対応を心掛けます。
- 施設沿いは、除草や剪定をこまめに行い、周囲からの死角を解消し事件、事故の発生を未然に防止するほか、想定される様々な危機への的確な対応に努めます。
- かつての箱根離宮の面影を残す礎石、スギやマツの老木、苔むした石垣などを保全し、歴史的雰囲気醸成するような維持管理に努めます。
- 芝生地や緑陰の保全、育成に努めることとし、芝生地の裸地化を避け、芝生地の良好な育成を図ります。
- 国登録記念物に登録されている構成要素（庭園、中央広場、山上門、中央園路、ベルツの碑、塔の鼻広場など）の保存に配慮した管理を行います。
- 植物管理（植込地、芝生、樹木、草地等管理）について、当初の植栽意図を踏まえ、各植物の特性及び生態系に配慮します。
- 樹林地は景観的にも公園内の環境としても重要であり、遷移に任せ自然林として保護し、眺望の良い箇所を支障竹木については、優れた眺望が維持できる必要最低限の剪定となるよう配慮します。
- 絶滅が危惧される希少なコケ類の保全に努めます。
- 利用者や様々な団体との情報交換を図ります。

(2) 運営に関する取組

- 本公園は、神奈川県地域防災計画災害時広域受援計画で、広域応援活動拠点に指定されていることから、大規模地震などの大規模災害発生時等には、活動拠点として開放します。
- 近年における台風や豪雨等の自然災害への脅威の高まりなどを踏まえ、巡回点検や応急対策等のマニュアルを作成し実践します。また、公園施設の被害軽減のため、県、指定管理者及び防災機関との連絡体制を構築します。

- 広報や情報発信等の工夫を行い、利用者と双方向のコミュニケーション手段の利用を促進します。
- 湖畔展望館等を利用者へのサービス提供や交流拠点、情報発信拠点、環境教育運営拠点として箱根の歴史の普及啓発に努めます。
- 「関東の富士見百景」に選定されていることから、富士山の見える景観の保全、活用を通じて美しい地域づくりの推進に努めます。
- 「日本の歴史公園 100 選」に選定されていることから、箱根離宮として造営された歴史を尊重します。
- 外国人観光客を対象とした受け入れ体制の整備に努めます。
- 多様な公園利用プログラムの提供とマナー向上を図り、障がい者、幼児から高齢者まで誰もが安全、安心して楽しめるよう努めます。
- 周辺施設、地域の人々との連携を深め、周辺地域での世代を超えた交流などコミュニティの活性化と地域全体の魅力向上に努めます。

3-2 整備の方針

芦ノ湖と富士山を中心とする優れた自然景観との調和を図るとともに、箱根離宮跡や旧東海道に架けられていた石橋などの園内に残る史跡などを保全・活用し、歴史ある国際観光地「箱根」の観光スポットとして整備していきます。

(1) 整備に関する取組

- 「公園施設長寿命化計画」に基づく施設の更新により、公園施設を安全に利用できるよう、計画的に整備します。
- 誰もが利用しやすい公園とするため、県民目線での検討を行い、既存施設のバリアフリーの更なる推進を図ります。また、ユニバーサルデザインの推進、多言語表示の徹底などを図るよう計画的に整備します。
- 適切な樹林地管理を行うことで、安全で良好な自然を維持します。

(2) おおむね 10 年以内にすべき主な事項

次の施設については、速やかに着手することが望ましいため、重点的な取り組みを行います。

名称	所在ゾーン	整備
公園施設	全域	老朽化施設の更新等
多言語案内板	全域	ユニバーサルデザインの対応
樹林地	樹林地ゾーン	自然環境の保全・安全対策

※ 整備の優先順位は、施設の老朽化の程度、利用者からの要望、利用者への安全確保等の観点から、総合的に判断する。

【恩賜箱根公園ゾーン図】

